

遺跡周辺の様子



東側から撮影



令和4年度第2回 遺跡見学会資料 令和4年9月17日(土)

ひがしほんじょう

本庄市 東本庄遺跡(C地点)

東本庄遺跡の発掘調査は、県道花園本庄線の工事に伴って、令和4年(2022)1月から開始しました。今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけてのムラの跡や、中世の屋敷の跡がみつかりました。



西側から撮影



東本庄遺跡（C地点）全体図



古墳時代

第23号住居跡

第23号住居跡は、北西にカマドを設けた^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡です。住居内からは、貯蔵用の壺、煮炊用の^{ちようとうがめ}長胴甕などのほか、底部に孔を蜂の巣状にあけた^{こしき}甑や、小型の壺などが出土しました。カマドの近くからは、甕に甑が重なった状態で出土しました。



たかつき
高坏



甑



甕と甑

奈良・平安時代

第5号住居跡は、北にカマドを設けた竪穴住居跡です。^{はじき かめ つき みみざら}土師器の甕や坏、耳皿などが出土しました。また、漁でつかう網につけた^{どすい}土錘も出土しました。



第5号住居跡



耳皿

第7号住居跡は、東にカマドを設けた竪穴住居跡です。^{だいつきがめ りよくゆうとうき ごうす}土師器の台付甕や坏、^{さなげよう}緑釉陶器の合子、鉄製の鎌などが出土しました。

この合子は、愛知県の猿投窯で焼かれた極めて貴重な品です。平安京の冷然（泉）院跡からも出土しています。大きさは、口径6cm、高さ2.3cmです。



緑釉陶器(合子)



第7号住居跡

東本庄遺跡C地点は、北西のローム台地から南東の低地へ向かい傾斜しています。高低差は約1.5mあります。

台地の上には、古墳時代後期の集落跡が見つかりました。

また、台地から低地にかけて奈良・平安時代と中世の集落跡などが見つかりました。



第5号 かわらけ溜り

中世

かわらけ（素焼きのお皿）の集中して出土した場所が、5箇所検出されました。かわらけは大・中・小の3種類がありました。そのほかに、使い込まれた^{すずり}硯やスタンプの押された火鉢なども出土しました。



かわらけ



硯



- 凡例
- 竪穴住居跡（古墳時代）
 - 竪穴住居跡（奈良・平安時代）
 - 井戸跡
 - 溝跡
 - 土壌・ピット
 - かわらけ溜り

